

歴史文化学科・教育研究上の目的及び3つのポリシー

教育研究上の目的

文学部歴史文化学科は、歴史・文化に関する学識を修め、世界の中の日本を自覚し、多様な現代社会に対応できる能力を有する人材の養成を目的とする。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

歴史文化学科は、卒業に必要な単位を取得し、以下に示すような能力を備えていると認められる学生に、卒業の認定を行い、学士（歴史文化学）の学位を授与する。

1. 豊かな教養と専門的知識およびそれを活用する技能

- (1) 人文分野を始めとして、社会・自然分野に及ぶ確かな知性と鋭い感性を備えた、豊かな人間性を陶冶することができる。

2. 他者との共同による問題発見・解決能力と、それを支える思考・判断・表現力

- (1) 世界、日本、地域の歴史・文化に関する豊富な学識を修め、歴史に学びながら現代社会を生き抜いていくことができる。

3. 自律的学習者として学び続け、社会に貢献する意欲と能力、社会の担い手としての使命感

- (1) 現代の多様な課題の発見・解決に主体的に取り組み、歴史文化学科で修得した専門性を総合して、新たな価値の創造に柔軟に活かすことができる。

4. 本学の建学の精神や本学の理念に対する理解

- (1) 国際化が進む社会において、異なる立場にある者とも相互理解の上に立って、十分なコミュニケーションを取りながら、協働することができる。

教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

歴史文化学科は、卒業認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。

1. 教育内容

- (1) まず、1年次の専門必修科目である「歴史文化学入門A・B」において、歴史文化学全般の導入教育を行い、1年次からの基礎的訓練の動機づけを図る。同時に、専門基礎科目で日本史、東西文化、観光歴史学の各コースの概要を周知し、専門支援科目で各コースの専門教育を支援する専門的な言語運用能力の養成を図ることで、2年次からのコース分けに備える。
- (2) さらに、1年次から2年次にかけては、語学科目を中心とした基礎教育科目で、国際社会に通用する国際感覚を身につけるとともに、専門教育の基礎となる多様な一般的学力を身につける。また、多様な現代社会の諸問題に対応できるように、学科の枠を超えた全学共通科目で、人文・社会・自然諸科学にわたる幅広い教養の形成を図る。
- (3) そして、2年次には、専門教育として1年次に続いて専門支援科目の学修を深めると同時に、専門必修科目の「基礎演習」において、それぞれの関心に応じた演習科目を配当する。講義科目としても、1年次からの専門基礎科目に加え、コース分けが行われた後なので、学生が選択したコースに関する様々な専門的領域の研究成果を提示する研究科目を用意する。

- (4) 3 年次では、2 年次までの基礎的教育の学習成果を発展させて、専門科目を学ぶ。なかでも、専門必修科目の「専門演習」で、各コースそれぞれの専門性に応じた演習が行われる。このように、主体性、創造性や協働性を養うために演習を重視する本学科の立場から、3・4 年次には他にも、各コース独自の演習・実習科目を提供する。
- (5) 3・4 年次では、各コースの発展的内容を持つ多様な講義科目を設けて、学生の専門領域の学識を深めるとともに、他領域との交流・比較も行うことで、アナロジーやシナジー効果などによる、さらなる発展を図る。このように、本学科は 2 年次という比較的早い時期に各専門コースに分かれるという特徴を持つが、同時に 3・4 年次にいたるまで一貫して、多数の他コースの授業も受講できるという特徴もあわせ持っている。
- (6) 4 年次では、4 年間の学問研究の集大成として、「卒業研究」が行われる。各自が指導教員のもとで、自分のコースの学問領域の中で、さらに特定の専門領域を選択して、これまでの学習成果を自らが選んだ具体的な研究テーマの深化のために活用していく。

2. 教育方法

- (1) 知識の理解を目的とする教育内容については、講義形式を中心とした授業形態を採るとともに、意欲・関心、課題発見・解決、及び技能の習得を目的とする教育内容については、演習形式による授業形態を採ることとし、また理論的知識や能力を実践に応用する能力を身につけることを目的とする教育内容については、実習形式による授業形態を採用する。
- (2) 基礎から発展へと体系的な学修が可能となるようにするとともに、特に専門教育においては、専門分野の教育内容ごとに、知識、技能、応用といった授業の内容と科目間の関係や履修の順序に留意する。

3. 評価方法

- (1) あらかじめ各授業における到達目標やその目標を達成するための授業方法、計画等を明示したうえで、成績評価基準や卒業認定基準を提示し、これに基づいて厳格な評価を行う。
- (2) GPA 制度を導入して、客観的な評価基準を適用する。
- (3) 4 年間の総括的な学修成果として、卒業研究の評価を行う。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

歴史文化学科は、教育研究上の目的、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針に基づき、以下の能力を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。

1. 知識・技能

- (1) 歴史文化学科のカリキュラムはもとより、大学教育それ自体に対応できる知識（基礎学力）を有するとともに、入学後も学修を継続していくための基本的な技能を習得している。

2. 思考力・判断力・表現力

- (1) 歴史に対する強い興味と関心を抱き、社会に対する認識を深め、これを卒業後に社会人として具体的に活かしていくための方策を考えていくことができる。

3. 主体的に学習に取り組む態度

- (1) 大学生活を通じて、2 に掲げた内容を実現していくため、自ら積極的に他者とのかかわりながら、柔軟かつ積極的にこれに取り組むことができる。

歴史文化学科アドミッション・ポリシーと各入学選抜試験との関連表

入試方式	選抜方法	アドミッション・ポリシー		
		知識・技能	思考力・判断力 ・表現力	主体的に学習に 取り組む態度
		AP1	AP2	AP3
一般選抜 桐門の翼奨学金試験 ※選抜方法は入試方式で異なる	学力試験			
	英語民間試験スコア	●		
一般選抜 (英語民間試験活用総合評価型)	英語民間試験スコア	●		
	事前課題論文	●	●	●
総合型選抜 学校推薦型選抜 特別選抜 ※選抜方法は入試方式で異なる	調査書 等	●	●	●
	小論文	●	●	●
	自己推薦書		●	●
	個人面接	●	●	●